

■ドキュメント名

KW:トレーサビリティとは

■クライアント

社名	サイトURL
シヤチハタ株式会社様	https://www.shachihata.jp/media/

■記事案オーダー

記事案 FIX予定日	初稿 納品予定日	最終稿 納品予定日
2023/11/13	2023/11/29~	2023/11/29~

新規/リライト	既存記事URL (リライトの場合)
新規	

メイン対策キーワード	検索vol.	備考
トレーサビリティとは		
必要 関連キーワード(上から順に優先。必ず本文中に記載する。)		検索vol.
参考記事のURL (検索上位の中から抜粋)		
1.		
クライアント要望(この商品を紹介したい。この点を魅力として伝えたい。こういう言い方はしたくない。etc.)		

備考



■ヘッダー情報

本タイトル

【トレーサビリティ】のメリットとは？ わかりやすく解説【注意喚起あり】

記事概要・ディスクリプション(120文字程度)

トレーサビリティは、食品・計測器などの製造業をはじめとし、IT化が進む現代において注目度の高いシステムです。本コラムでは、トレーサビリティについて簡単かつわかりやすく解説いたします。必要性・メリットおよびうまく機能させるポイントも紹介いたしますので、ぜひご覧ください。

■本文

<H1>【トレーサビリティ】のメリットとは？ わかりやすく解説【注意喚起あり】



トレーサビリティは、食品産業や計量・計測器業界をはじめとする製造業で活用されはじめたシステムです。製造業だけではなく、近年はIT化が進む産業でも注目度が高まっていることをご存知ですか？

本コラムでは、2種類あるトレーサビリティについて、簡単に理解できるよう具体例を交えながらわかりやすく解説いたします。トレーサビリティシステムの必要性やメリットに加え、うまく機能させるために重要なポイントも紹介いたしますので、ぜひ参考にしてください。

<H2>トレーサビリティとは



pixta.jp - 95549861

まず、以下3つの視点からトレーサビリティとはどのようなものなのかに迫っていきましょう。

- トレーサビリティの意味
- トレーサビリティ普及のきっかけとなった事例
- トレーサビリティのしくみ

トレーサビリティとは、簡単にいうと、製品の製造ルートを明らかにすることを指します。英語の「Trace(追跡)」と「Ability(能力)」を組み合わせて作られた用語です。原材料の産地や生産過程、製造日時・場所などの識別情報を印字し、履歴を追跡できるようにしておくことで、製品の安全性と品質を向上させる効果が見込めます。

トレーサビリティは、2000年はじめに起きた「BSE(狂牛病)問題」によって注目され始めたことから、従来は食品製造業で導入されるケースが一般的でした。しかしITの発展にともない、不正・改ざん防止策として、トレーサビリティの重要性が今後ますます高まると考えられています。

トレーサビリティは、情報をさかのぼる「トレースバック」と、後の工程を追跡する「トレースフォワード」という2つのしくみから成り立っています。具体例を挙げると、製品の不備がどの製造工程で発生したのかをたどり、原因究明をスムーズにするための機能がトレースバックです。対して、製品の不備が見つかった際、すみやかに回収し被害の拡大を食い止めるためにその流通経路を追跡することがトレースフォワードです。

<H2>トレーサビリティには2種類ある



pixta.jp - 96235287

トレーサビリティは、次の2種類に分けられます。

- チェーントレーサビリティ
- 内部トレーサビリティ

具体例もふまえ、それぞれの違いをみていきましょう。

<H3>チェーントレーサビリティ

チェーントレーサビリティとは、材料調達・製造から消費者の手に渡るまでの全工程における物流を追跡可能にすることです。材料の入荷元へさかのぼったり、出荷先を追ったりなど、本来であれば自社の手が届かない範囲の工程を把握できるようになります。

<H3>内部トレーサビリティ

内部トレーサビリティとは、特定の事業所および工程に限定したモノの流れを追跡できるようにすることです。具体的には、自社での生産・加工のプロセスおよび出荷先の特定までを指します。各工程における作業内容や、製品の情報が紐付けることで、品質が向上するだけでなく業務の見直しに活用するという使い方もできます。

<H3>トレーサビリティが必要な理由【注意喚起】



pixta.jp - 44971340

トレーサビリティが確立できていない場合、以下のような問題が起こりかねません。

- トラブル対応が遅れる
- 経済的損失が生じる
- 信用が失墜する

物流工程が特定できないと、トラブルが発生した際の対応が遅れる可能性が高いでしょう。原因を究明している間にも、被害はどんどん広がり続け、消費者の安全が脅かされ続けるおそれがあります。

原因を突き止めないことには、どの工程に問題があったのかわかりません。そのため、流通している全製品の回収・廃棄が必要となうえ、生産を一時ストップせざるをえないことから、トラブル対応にかかる経済的損失は甚大です。

製造工程にトラブルが発生した場合、取引先や消費者の不信感を煽ることになるため、信頼性の低下は避けられないリスクだといえます。さらに、どの工程に原因があるのかわからず問題への対応が著しく遅れると、顧客からの信用は地に落ちてしまうでしょう。

<H2>トレーサビリティ導入のメリット



pixta.jp - 78186947

トレーサビリティシステムを導入する大きなメリットとして、下記4点が挙げられます。

- リスク管理の強化
- 顧客満足度の向上
- 製品の品質アップ
- 信頼できる企業としてのブランディング

<H3>リスク管理の強化

識別情報・記号を印字しておけば、トラブル発生時の原因究明が容易です。問題の原因がすみやかに把握できれば、当該製品の回収作業がスムーズに行えます。トラブル対応にかかる費用および生産停止期間も、最小限になるでしょう。

<H3>顧客満足度の向上

トレーサビリティシステムでは、顧客情報を付与することも可能です。蓄積された情報・履歴は、マーケティングに活かせるため、さらに満足度の高いサービスを提供できるようになります。

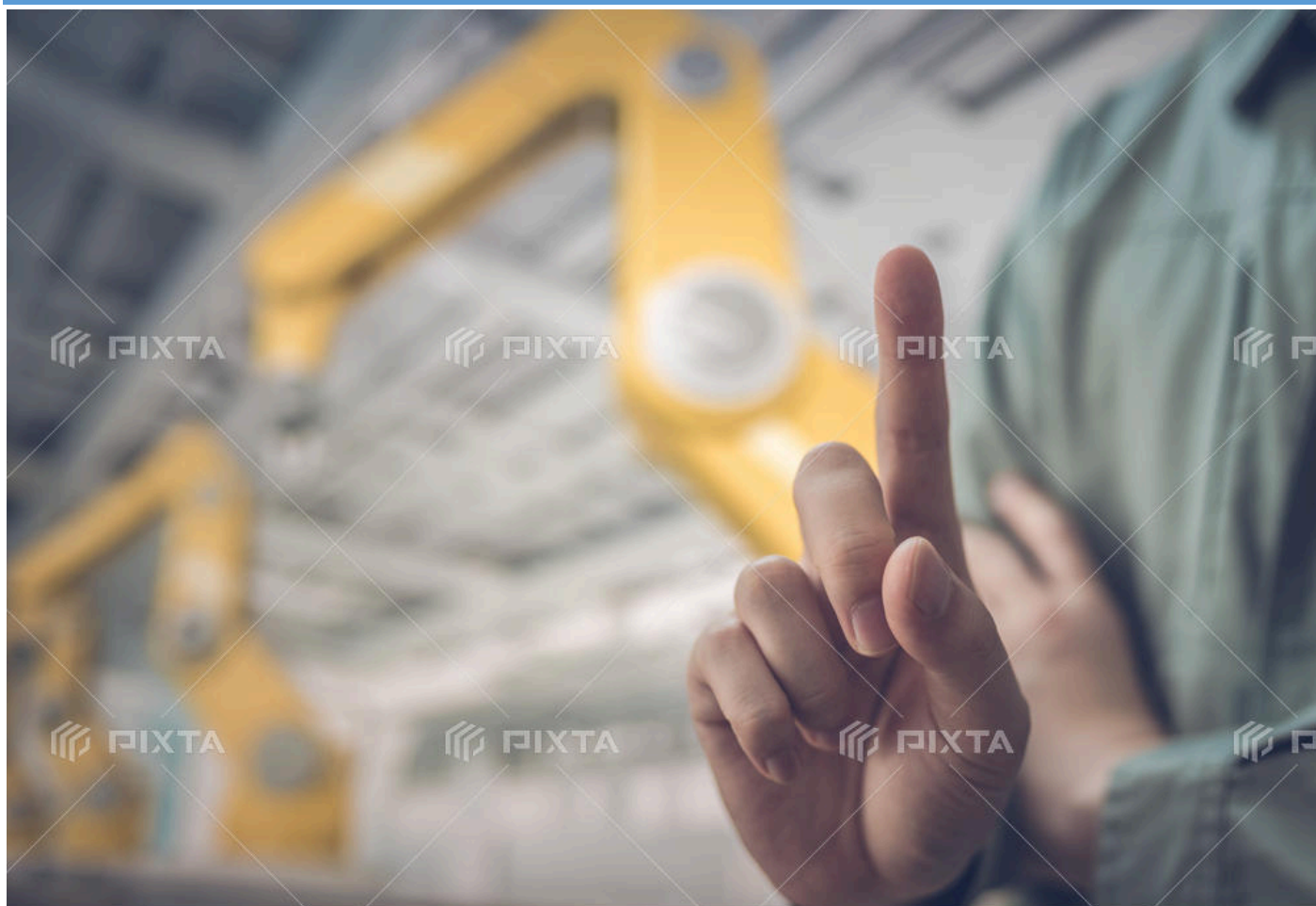
<H3>製品品質の向上

トレーサビリティによって製造工程をたどれば、問題がどこにあるのかが明らかになるため、すべての生産現場における責任感を高める効果が期待できます。また、トレーサビリティによって共有された情報は、製品の品質・精度のひとつの基準です。基準が明確に示されることで、一定の品質を担保できるようになるでしょう。

<H3>企業としての信頼度の向上

トレーサビリティによってリスク管理の方法を明らかにすることは、消費者にとっても有益なしくみだといえます。手に取った商品のルーツがたどれるようになれば、安心して購入できるためです。トレーサビリティを確立することで、安心・安全な製品を提供する企業というイメージの定着が図れるでしょう。

<H2>トレーサビリティを機能させるためのポイント「鮮明な印字」あってこそそのトレーサビリティ



トレーサビリティは、次の3点を確保してはじめて適切に機能するようになります。

- 各サプライヤーとの協力関係
- 情報の一元化
- 正確かつ鮮明にマーキングできる印字方式

<H3>関係者との協力関係

トレーサビリティシステムには、全工程における供給元や利害関係者との連携が不可欠です。考え方や認識にズレがあると、トレーサビリティがうまく働かなくなるため、協力関係の強化に努めてください。また、トレーサビリティ管理の負担が大きくなりすぎないように、各現場に適した範囲で導入するほうが良いでしょう。

<H3>情報の一元化

各工程で情報管理がバラバラだと、認識の相違が生まれ、トレーサビリティの利点を活かさないおそれがあります。例えば、製造現場では業務効率化を重視した情報管理が行われるのに対し、消費者に近い工程だとリスクヘッジに重きが置かれがちです。ブロックチェーン技術などを用いて情報を一元管理し、物流の全工程において有益なシステムを確立することが大切だといえます。

<H3>手軽かつ正確にマーキングできる印字方式

操作が難しく、印字不良やミスが多発する印字方式では、トレーサビリティがうまく機能しません。あらゆる素材に印字でき、手入れも簡単な「シヤチハタ」のスタンパーなら、生産ラインでのマーキングに関するトラブルを軽減できるでしょう。

[▶「TAT金属印」の製品紹介はこちら](#)

<H2>トレーサビリティは鮮明な印字があつてこそ！まとめ



pixta.jp - 63797646

製品に対する安心・安全が重視される現代において、トレーサビリティの徹底は重要な課題となっていくでしょう。そして、トレーサビリティは、正確かつ鮮明な印字が大前提です。

「シヤチハタ」は、創業以来、産業マーキングの効率化・リスクマネジメントに役立つよう、日々技術を磨いてまいりました。約1世紀の歴史で蓄積してきた開発技術から生み出したスタンパーは、日本中で活躍しています。マーキング・インキに関するありとあらゆるご相談を承りますので、トレーサビリティを支える印字方式をお探しの方はぜひ[お問い合わせ](#)ください。

<H2>シヤチハタの「多様な産業を支える技術力」は、日本中で使われています

